

平成28年度 長崎県立大村特別支援学校 学校評価結果

【教育活動】

- 学校の教育目標及び教育方針の設定に関しては、保護者、職員ともに高く評価されています。今後も病弱教育校として、多様化する児童生徒個々の実態に応じた教育を追求し、継続した実践をしていく必要があります。
- 学級経営目標や教育活動の保護者との共通理解、「児童生徒に付けさせたい力」では、保護者・教職員ともに3点台の評価をしていますが、教職員間及び保護者と教職員間の共通理解について、連携方法を工夫する必要があります。
- 「わかる授業」の項目では、保護者・教職員ともに評価は高いですが、保護者から指導のあり方に対する指摘もあり、教職員間の連携を深めるとともに、教職員一人一人が専門性を高める自覚をもつことと、より一層の指導力の向上が求められます。児童生徒の評価は概ね高いので、今後も一人一人の実態に応じた授業の工夫をしていく必要があります。
- 「学校と保護者間との連携」の項目については、概ね高い評価になっています。児童生徒の成長のためにも、引き続き学校・寄宿舎・家庭が連携する必要があります。
- 「学校行事」については、行事の精選や活動内容の工夫により保護者・教職員ともに評価は高いです。次年度以降も、児童生徒の実態を考慮して実態に応じた活動内容を検討する必要があります。
- 「進路」に関する項目は、教職員の評価は下がりましたが、保護者の評価は高いです。進路に関しては、進学先や将来の不安を抱えている場合があり、それを取り除くためにも教職員一人一人が進路指導に関する知識を有し、早期からの進路指導及び進路情報の提供をすることが大切であると考えています。
- 「交流及び共同学習」の項目は、概ね高く評価されています。居住地校交流については、児童生徒の実態によっては実施しにくい状況もあります。「交流及び共同学習」としては、地域や居住地とのつながりとともに、学習経験の幅が広がってくると考えられます。今後も様々な機会に積極的に推進して、早期計画のもとに十分な準備をして実施していく必要があります。
- 「給食、舎食、食育」の項目に関しては、教職員・保護者・児童生徒とも高評価です。食については、児童生徒の実態から大切な要素が多くあり、今後も学校・寄宿舎・家庭で共通理解を図り、全体で継続的な指導をしていくことが必要です。規則正しい食生活や食事のマナーなどについては、児童生徒の実態を考慮しながら段階的に指導していく必要があります。
- 一昨年度新設した「心身の健康の回復や保持増進」「いじめのない学校作り」「体罰のない指導」の3項目は、教職員・保護者ともに非常に高く評価しています。しかし、児童生徒への接し方について、保護者の方から改善を指摘する意見がありましたので、今後は更に児童生徒の実態や特性を考慮して、人権を意識した指導を徹底していきます。また、「いじめ」「体罰」については、別途アンケート調査をしておりますので、引き続き未然防止に努めていきます。

【組織運営】※教職員のみ回答

- 「組織運営」の項目は、教職員のみ回答で4項目共に3点台前半の評価となっています。大きな課題はあがりませんが、校務の連携や分担をはじめ、各種委員会や校内研修のあり方など、次年度に向けた課題を明確にし、具体的な方策をもとに実践して、より機能的な組織作りをする必要があります。
- 「危機管理体制」の項目は、3点台前半の評価でした。全国的に学校や障害者施設等への不審者侵入事案があり、緊急時のマニュアルを見直すとともに施設設備の充実を図り、日頃からの緊急時に機能する体制整備が求められます。また、児童生徒の心的な影響を考慮してこれまで実施していなかった不審者対応訓練を次年度に実施するにあたり、実施内容・方法等を検討する必要があります。

【教育環境】

- 「教育環境」については、各項目ともに保護者の評価が非常に高く、児童生徒の評価も概ね良好でした。教育環境を整えることは、児童生徒の学習効果に大きく影響するため、具体的な課題を把握し、早急に改善する必要があります。また、ICT機器の活用については、各教職員の専門性を高め、児童生徒の実態や特性に応じた教育効果の上がる活用が求められます。
- 「安全対策」や「環境美化」については、概ね高く評価されています。今後も安全・安心な学校、潤いのある学校を保つ努力をしていきます。

【開かれた学校】

- 「開かれた学校」の項目は、保護者・教職員ともに概ね高い評価でした。「育友会活動」の項目は、活動が少ないという意見がありましたが少人数体制であり、できる範囲での活性化と継続的な活動が望まれます。また、地域資源の活用や情報発信については、計画的な取組が求められます。

【寄宿舎】

- 寄宿舎の項目は、保護者からは高く評価されています。教職員の意見で、指導のあり方や児童生徒の自主的な活動を引き出す指導を望む意見がありました。寄宿舎生が少なくケースが限られますが、児童生徒の課題を明確にして個々に対する具体的な対応策が求められます。

【総括】

- 児童生徒アンケートにおいて、×（あてはまらない）△（わからない）という回答が全体的に減り、◎（よくあてはまる）○（だいたいあてはまる）という回答が増えました。特に、「大村特別支援学校は自分にとって大切な学校」という項目は、全体の86%の児童生徒が◎（よくあてはまる）○（だいたいあてはまる）という回答結果から、本校に求められている教育を再確認してその役割を果たしていきます。
- 学校評価の結果を受けて、よりよい学校に改善していくために、課題となる項目については昨年度から各学部や各分掌部の努力目標の中に設定し、年間を通して意識的に改善・解決に取り組んでいます。今年度の評価を受けて課題を整理し、どのように今後の取組や改善に位置付けるか、教職員一人一人が考えをもって検討し次年度に繋げる必要があります。

【学校関係者評価】

平成29年3月6日（月）に開催しました学校評議員会で御意見をいただきましたので、主なものを紹介します。

- 本校の教育について
 - ① 授業参観では、先生方が子供たちを指導するために一生懸命取り組んでおり、子供たちは生き生きしていると感じた。
 - ② 学校評価の結果から、保護者及び児童生徒の学校に対する評価は高く、指導が行き届いている様子がわかる。
 - ③ いじめ、体罰、服務規律などについて、学校独自の様々な取組をされていることに感心した。
 - ④ いつも感じることであるが、先生方が子供たちに寄り添って授業をしている。
- 教育環境の整備について
 - ① 校内がきれいで清掃が行き届いている。
 - ② 花もたくさん植えてあり心が洗われる。とてもいい環境である。
- 給食について
 - ① 給食時間は、食材の説明や食事マナーなどの指導がなされており、給食を通した指導がしっかりと押さえられていると感じた。
 - ② 楽しい雰囲気では給食を食べ、子供たちの成長につながっている。ふれあい給食では、同じテーブルの生徒がよく話しかけてくれて、普通の子供たちだと実感した。